

第 3 回 学 会 内 容

【記念講演】『 ケアの臨床哲学 事始め ～〈当事者〉であること～ 』

講師：上智大学グリーンケア研究所 特任教授 浜渦 辰二 氏

《 略 歴 》

- 1952 年高知県生まれ、1976 年 3 月 静岡大学人文社会科学部卒業、九州大学文学研究科にて修士課程、博士課程を修めた後、ドイツへ留学
- 1991 年 4 月 - 1996 年 3 月 静岡大学人文学部 助教授
- 1996 年 4 月 - 2008 年 3 月 静岡大学人文学部 教授
2008 年 3 月より、同大学 名誉教授
- 2008 年 4 月 - 2018 年 3 月 大阪大学大学院文学研究科 教授
2018 年 3 月より、同大学 名誉教授
- 2018 年 4 月 - 2021 年 3 月 大阪大学大学院文学研究科 招へい教授
- 2020 年 4 月 - 現在 上智大学グリーンケア研究所 特任教授
また、静岡市内の認知症カフェ「オレンジカフェ静岡」にて店長を務める



《 主な著書 》

- 「ケアの臨床哲学への道 ー生老病死とともに生きるー」、
- 「On Development from Husserl's Phenomenology - Between Phenomenology of Intersubjectivity and Clinical Philosophy of Caring -」、
- 「可能性としてのフッサール現象学 ー他者とともに生きるためにー」、
- 「フッサール間主観性の現象学」 他

「人々が苦しみ、横たわっているその場所、ギリシャ語でクリニコスという言葉」そこに「臨床哲学の精神」が始まっています、と氏は語っています。クリニコスがベットサイドという意味だとすれば、病であれ、障がいであれ、その当事者の抱えている状況に寄り添うところから〈哲学〉することを使命としています。言うまでもなく、臨床とは、当事者の傍らに立ち、その〈祈り〉を実現していく不断の行為です。ケアに関する多くの論文等を著している氏は、「人生の始まり（誕生）のケアと人生の終わり（死）のケア」を視野に入れ、福祉や医療の現場を丹念に渉猟しつつ「なぜ、ひとはケアするのか」を問い続けています。認知症カフェ「オレンジカフェ静岡」の店長（カフェマスター）でもあります。

【分科会】支援分野別研究

障害当事者の「思い」「働く」「暮らす」について、それぞれ各専門部会より事例発表や報告を通じて課題を提起。参加者の皆さんで意見を出し合い、考えをまとめていただきます。

①意思決定支援 ・ ・ ・ 企画・運営：本人部会

テ　　マ	作業所で働く仲間のこと、みんなで話しましょう
課　題　提　起	■ 事例発表リレー 発表事業所：ワークショップり～ふ ラポールたけみ 安倍口作業所 第2こづつみ作業所 ともの家
進　　行	げんきむらプリント工房 鈴木 裕子 氏

②就労支援 ・ ・ ・ 企画・運営：就労支援部会

テ　　マ	今の時代、制度における「はたらくことの支援」とは
課　題　提　起	■ 「私の大切にしていること、コトバにしてみます」 話題提供者：(福)復泉会 大石 影子 氏 (特非)あくしす 堀米 美紀 氏 (福)みどりの樹 寺田 志のぶ 氏
進　　行	(福)みどりの樹 海野 洋一郎 氏

③地域生活支援 ・ ・ ・ 企画・運営：地域生活支援部会

テ　　マ	地域で暮らすこととは
課　題　提　起	■ 「地域資源の活用と連携の実践」 報告者：賀茂障害者就業・生活支援センターわ 高橋 和彦 氏
進　　行	放課後等デイサービスじゃんぷ 内藤 善仁 氏

【全体ディスカッション】テーマ：(仮)『当事者にとって作業所とは』

進　　行：静岡福祉大学 教授 増田 樹郎 氏 (研修委員会アドバイザー)

障害者福祉において、作業所時代を経験している方達からは、そうでない方達とのギャップを感じる場面が多々あると聞きます。また、作業所時代は事業ではなく活動だったとも言われ、「作業所」要素が失われていく現制度のなか、そのマインドを保持し継承していく事に困難を感じているようです。一方で経験していない方達からは、「作業所」ってただのノスタルジーじゃないの？という声も聞きます。

そもそも、当事者はどのように感じているのでしょうか？平成24年度のアンケート調査では就労支援への偏りが危惧されていましたが、現在はどうでしょうか？

この時間では、分科会の報告を交え、皆さんから忌憚のないご意見をいただきながら、改めて当事者の視点から「作業所」を考えていきたいと思えます。